

## 専門家によるコメント

(1) <sup>なかい</sup> <sup>ひとし</sup> 中井 均 滋賀県立大学教授 専門：考古学（中近世城郭遺跡）

今回検出された道と石垣は、駿府城でこれまで分からなかった慶長期（江戸時代初頭）以前の武家地の構造が分かるもので、非常に価値が高い。道に沿う石垣の積み方からすると造られたのは天正期とみてよいだろう。道に沿う石垣には上り口がないことからすると、相当大きな武家地であり、重臣クラスのかなり位の高い人物の屋敷地であったと言える。

戦国時代の城下町の事例では、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡があり、復元されて見るることができるものはこれしかない。

発見された遺構は保存、公開をして、歴史文化施設の展示と共存するべきと考える。

(2) <sup>かとうまさふみ</sup> 加藤理文 公益財団法人日本城郭協会理事

両側に石垣が並びその間に叩き締めたように固い地盤が造られていることから、道の遺構であることは間違いない。石垣は粗割のものもあるが自然石が多いことから、天正期（徳川家康～豊臣武将中村一氏）段階のものと考えられる。

いずれにしても、発見された遺構は江戸時代以前の石垣で仕切られた武家屋敷と道の遺構で、全国でもあまり事例のない貴重な遺構である。これを現状のまま保存し、博物館の展示に生かすべきと考える。

(3) <sup>おわだてつお</sup> 小和田哲男 静岡大学名誉教授/公益財団法人日本城郭協会理事長

## 専門：日本中世史、戦国時代史

歴史文化施設予定地での事前の発掘調査により、これまで知られていなかった戦国時代の遺構が発見されたことの意義は大きい。昨年発掘調査で話題となった大御所時代（慶長期）以前の天守台石垣と同時代と思われる石垣をともなった道路が発見された。五ヶ国時代の家康在城期のものか、天正 18 年に入城した中村一氏時代のものかはまだ確定できないが、いずれにせよ、天正期の道路であり、その両側に武家屋敷が建ち並ぶ状況がわかったことの意義は大きい。

駿府城下の、戦国末期の道路と武家屋敷の様子がはじめて検証されたことになる。戦国期の道路や武家屋敷については、越前一乗谷の例が知られている程度で、全国的に類例はほとんどなく、このまま保存することが望ましいし、それだけの価値はあると思われる。

歴史文化施設の設計変更をしてでも、この遺構を残し、多くの人に見てもらおうようなしかけを考える方向で検討してほしい。

家康が大御所となって入ってからの駿府城およびその城下町についてはある程度わかっているが、それ以前の駿府城下町については資料も少なく、よくわかっていない。今回の発見が、家康以前の駿府城下、さらにはそれ以前の今川氏時代の駿府館および城下の解明につながるものと思われる。